

2017年度（平成29年度）
第2回 福山市地球温暖化対策実行計画協議会 議事概要

1. 日時等

日時： 2018年（平成30年）2月26日（月）
14:00～15:10

場所： 福山市役所本庁舎6階 60会議室

2. 出席者

委員： 澤田結基 会長，山田明 副会長，粟井英次 委員，沖藤克治 委員，
加藤博己 委員，寺岡清和（神原昌弘 委員の代理），小林乙也 委員，
坂田和之 委員，笹川司 委員，品川朋之 委員，瀬戸田誠 委員，
藤井久敬 委員，藤原和彦 委員，山口紗代子 委員

事務局： 環境部長，環境総務課長，環境総務課政策担当次長，環境総務課職員2名，
廃棄物対策課長，環境啓発課長

3. 議事

- (1) 第1回協議会意見に対する追加説明
- (2) 福山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定について
- (3) その他

4. 議事要旨

○会議は，公開で行われた。

○事務局より，（1）第1回協議会意見に対する追加説明，（2）福山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定について説明がされた後，意見交換が行われた。

（意見の概要）

温室効果ガス排出量の推計方法について

○原単位の削減目標指標案は，今回追加したのか。それとも前回からあるのか。

⇒前回協議会の中で，トータルの排出量だけではなく，原単位の排出量も考える必要があるのではないかという意見があったので，追加した。経済成長すると排出量が増えるが，省エネを進めていく中での原単位の削減も重要な対策だと考えている。

○産業部門における福山市のCO₂排出量の測定方法について，どのように算定したのか。

⇒国や県等の統計資料を参考に，総量を計算している。大部分については，温対法に基づく

温室効果ガス排出量の開示データを用いている。開示データがないものについては、都道府県別エネルギー消費統計などのデータを福山市分に按分し、算出している。

○2013年度以降は推計方法が異なるとあるが、具体的にどう変わったのか。

⇒2013年度以降、国の統計資料が変更されたため、業務その他民生部門の数値が減少している。次回までに整理する。

○排出量の推計値について、実態数値は何%で、按分で出した数値が何%になるか。

⇒算出していないため、次回までに検討する。

削減目標について

○国の推計には、推定値が多いと伺っている。何をやって何トン削減するといった積み上げベースで目標値を設定する方が良いのではないのか。

⇒検討する。

指標について

○計画の中で、何を実施していくかが重要であり、定量的に把握できるものを指標とすれば、進捗管理がしやすいと思う。

バイオマス利用について

○以前バイオマスについて質問した際、材料不足のため福山市にはあまり馴染まないという意見があった。森林資源の整備開発にも繋がることであり、最近森林が荒廃し、動物による被害や農業被害も出てきているため、具体的な施策としてバイオマスを考えてはどうか。

⇒バイオマスについては、木材や材料の確保の面で、持続可能な稼働が厳しいと思う。現在、福山市では、バイオマス利用として、リサイクル発電を行っているが、引き続き検討していきたい。

○福山市は材になる山がない。間伐した木をどこに持っていくのか、どう活用していくのが問題になる。森林整備はロングランで見えていかないといけない。

○バイオマスに取り組む時には、福山市単独ではなく備後圏域で取り組むと、森林整備が非常にやりやすくなる。

⇒バイオマスの有効活用については、重要なものと認識しており、今後とも研究していく。

フロン対策について

○冷媒に使われている代替フロンが増加している。フロン法が改正されて、機器管理者の漏れ量の報告が義務化されているので、フロンに関する施策を入れてもよいのではないか。
⇒数値化できるものは可能な限り数値として計っていき、実効性のある計画を作成していきたい。

計画の位置づけについて

○先日、適応に関する法案が閣議決定され、その中で自治体における計画策定の話も出てくるようである。そのため、別途新しい計画を策定するよりも、改定時に新適応法案に関する計画の要素を盛り込むという方法も考えられる。
⇒そういった国の動きも踏まえて、次年度、計画を作っていきたい。

以 上